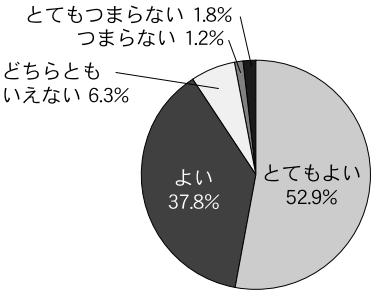
平成20年度のトピックス

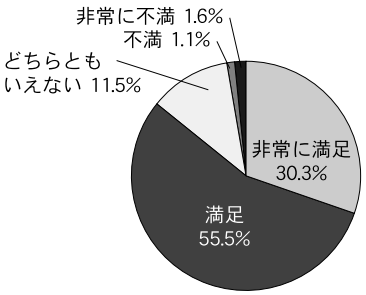
平成20年度収蔵資料展
「海辺の鳥たち～豊かな房総の海に舞う～」
平成20年7月5日（土）～9月15日（月・祝）

千葉県の海は、多様な海岸環境があるうえ、黒潮と親潮の両方の影響を受けることからいろいろな海の鳥が記録されています。そんな多彩な房総の海に生息するさまざまな海の鳥を、151点の写真と80点余りの剥製などで紹介しました。海の博物館が開館してから収集してきた海の鳥の標本を一堂に展示するのは初めてのことです。なお、この展示に先駆けて中央博物館本館では「砂浜の野鳥たち～九十九里の景観とともに」の展示を平成20年3月22日から6月8日まで開催し、それを受ける形での開催でした。

会場では、①砂浜の鳥、②岩礁の鳥、③沖の鳥の３つの海岸環境に分け、出現する主な海の鳥を展示・解説しました。また、入館者が参加できるように4つの「チャレンジコーナー」を設けました。①鳥が何を食べているか、嘴の形などから餌生物を当てるコーナー、②示されたポイントからウミウとカワウを見分けるコーナー、③羽毛を顕微鏡で観察するコーナー、④計数機と双眼鏡でさまざまな鳥の群れの写真の鳥の数をカウントするコーナーの4つです。特に鳥をカウントするコーナーが人気のようでした。



展示のテーマはいかがでしたか？



全体的な感想はどうでしたか？

会期中の入館者数は23,228人で、アンケートの主な結果は以下のとおりです。

多かったご意見

- 鳥が釣り針などの被害に会った写真を集めた「悲しい写真集」が心に響いた。副読本にすべき。
- 鳥のカウント（チャレンジコーナー）がおもしろかった。子どもが喜んでいた。
- 剥製（実物標本）が多くてわかりやすかった。
- チャレンジコーナーの配置がよかった。
- ワークシートがよかった。
- もっといろいろな鳥の声を流して欲しい。
- さわれるものがもっとあるとよい。

平成20年度マリンサイエンスギャラリー
「東洋のガラパゴス－小笠原諸島の海の生きもの－」
平成21年2月21日（土）～5月10日（日）

小笠原諸島は、房総半島のはるか南の海上に浮かぶ亜熱帯の島々です。小笠原諸島の陸の生きものは、ここでしか見られない固有種と呼ばれる種類が多いことで有名ですが、海の中の生きものたちにもなかなか個性的な顔ぶれがそろっています。平成20年度のマリンサイエンスギャラリーでは、小笠原諸島の海に住むさまざまな生きものを、さまざまな角度からご紹介しました。

小笠原諸島とは

小笠原諸島は、日本列島の南の海上に東西1,800km、南北1,000kmに渡って散在する島々の総称です。中心となる父島は、房総半島から約1,000km南に位置しています。父島の緯度は南西諸島の与論島とほぼ同じで、亜熱帯性気候の島々です。

海の生きものたち

小笠原の島々の回りには深い海が広がり、また黒潮の流路からも離れています。このため、多くの海に住む生きものにとって、小笠原にやって来て住み着くのは容易なことではありません。この小笠原諸島に住む多彩な生きものたちを、生息する環境別に紹介しました。

・潮間帯の生きものたち

このコーナーでは、小笠原と千葉県の磯の生きものを比較しながら、同じ種類が見られる生きもの、よく似た別の種類が見られる生きもの、千葉県には似た種がいない小笠原の生きものに分けてご覧いただきました。

・サンゴ礁の生きものたち

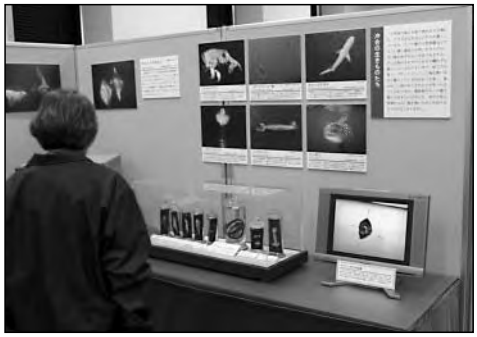
小笠原の島々をとりまく浅い海には様々な造礁サンゴ類が生息しており、美しい景観の中にはさまざまな生きものたちがサンゴと密接な関係を持ちながら生活しています。これらの多彩な生きものたちを、水槽展示を交えてご紹介しました。また、肉眼では砂粒にしか見えない小さな貝を顕微鏡や虫眼鏡で観察するコーナーも設けました。

・汽水・淡水の生きものたち

小笠原の島々の河川に住む生きものには、小笠原にしかいない固有種が少なくありません。このコーナーでは、多くの固有種の生きものたちを、その種が新種として発表される基準になった標本（タイプ標本）を含めてご紹介しました。

・沖合の生きものたち

小笠原の島々を取り囲む広大な海にも、さまざまな生きものたちが暮らしています。なかなか目にすることのできないこれらの生きものたちの姿を、貴重な写真やビデオ映像を交えてご覧いただきました。



・深い海の生きものたち

小笠原諸島の周辺の深海には、まだ十分に調べられていない生きものがたくさん生息しており、近年の研究でその多様性が徐々に明らかになりつつあります。当館研究員の研究成果を交え、その一端を紹介しました。

・ふるさとの海

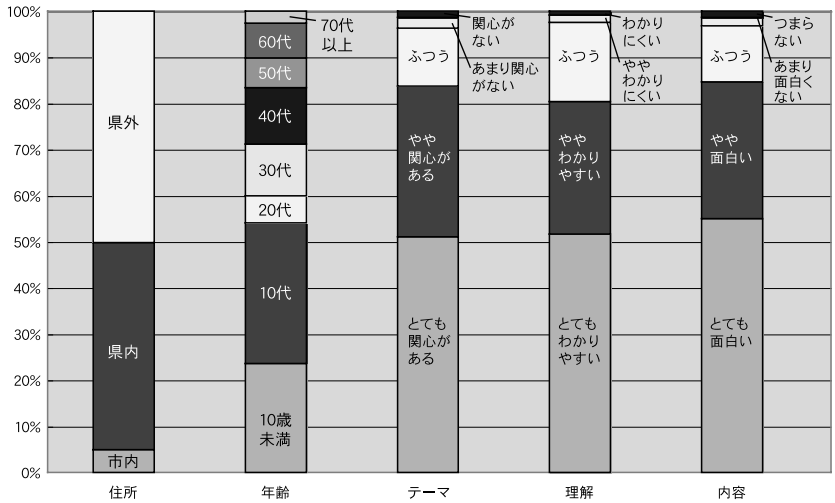
ほかの陸地から遠く離れた小笠原の海は、広大な太平洋を生活の場とする生きものたちの繁殖の場となっています。このような生きものからアオウミガメ・アホウドリ・ザトウクジラを取り上げ、その生活をご紹介しました。

小笠原情報コーナー

小笠原諸島はエコツーリズムの島としても知られ、また、世界自然遺産登録へ向けての取り組みが進められています。ここでは、小笠原でできるさまざまな自然観察や、自然の保全・再生に向けた活動、千葉県立中央博物館と小笠原の関わりなどを紹介しました。

アンケート結果

平成20年度マリンサイエンスギャラリーは、期間内に22,607名の皆さまにご来場いただき、会場でのアンケートには、794名の方から回答をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。アンケートの中で「いちばんおもしろかった展示」をお聞きしたところ、1.ダイオウイカ(607人中287人)、2.小さい貝(47人)、3.クジラ・イルカ(41人)、4.深海生物(30人)、5.アホウドリ(21人)、以下、タマカエルウオ(17人)、アオウミガメ(15人)、サンゴ礁の生きもの(13人)などで、「全部」というお答えも21人の方から寄せられました。



「うみはくボランティア」始動!

平成20年度から、海の博物館もボランティア制度を導入し、「うみはくボランティア」という名称で始動しました。初年度は5名のボランティア希望者の登録があり、簡単な研修を行った後、実際にそれぞれが希望する博物館の業務を担当していただきました。

海の博物館には様々な仕事があり、職員のみで全てをこなすには時間も人手も足りない面があり、やりたくてもできずに残されている仕事や、やってみたくてもなかなか手を付けられない新たな仕事があるのも事実です。今回集まってくださった5名の方々は、以前から海の博物館を利用していただき職員とも交流の深かった方もあれば、観察会等には何度か参加してくださっているものの職員とはあまり交流のなかった方もあるなど、様々でしたが、皆さん、「自分がやってみたいことに挑戦して、なおかつ海の博物館のためにもなることを」とおっしゃってくださり、精力的に活動してくださいました。そのため、職員が手の回らない幾多の業務をこなしてくださり、博物館側としても大変助かりました。

以下にボランティアの方の活動の一部を紹介させていただきます。

【Iさん】 博物館の活動全般に興味を持たれ、忙しい仕事の合間を見て、職員が長年やりたくても手を出せなかった標本の写真撮影をしてくださいました。また、陸上植物の知識も豊富で、鵜原理想郷での植物観察会では、講師の先生の補助のようにいろいろな解説もしていただきました。

【K1さん】 特に観察会の手伝いや展示室の解説をしてみたいとのご希望でした。海博では多くの磯の生きもの観察会を行っていますので、それらの行事での道具の準備、片付け、磯での参加者の安全監視、さらには生きものの説明などもしてくださいました。そのソフトな語り口と経験豊富なお話は職員にとっても大変参考になりました。

【K2さん】 海の生きものを学ぶ学生さんです。生きものに関する知識を活かして、観察会のお手伝いをお願いしました。大変上手でわかりやすい解説で、海の博物館で講師を引き受け切れなかった団体の磯の生きもの観察会の講師をお願いしてしまうほどの実力者でした。

【Sさん】 毎週1回は海の博物館に来て下さる常連さんです。体験コーナーなどで使う道具類の準備、当日の実施のお手伝いを始め、展示室に掲示する周辺の自然のコーナーの写真の整理など、職員が後回しにしているような細々した作業をこなして下さいました。

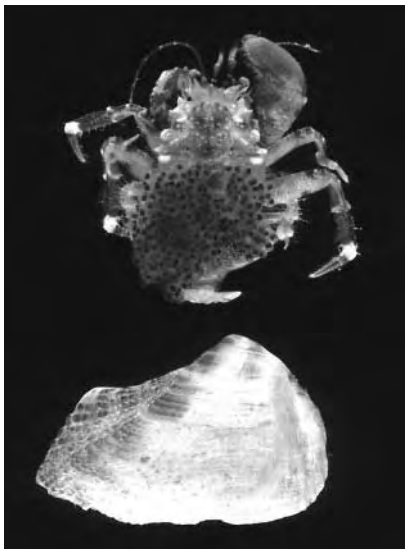
【Yさん】 理系出身の優れた技術を活かし、特に裏方での様々な作業を希望されていました。飼育している海藻の世話全般や標本整理、図書整理、企画展示の準備など、職員のひとりと言っても良いくらい様々な業務をこなしてくださいました。

「うみはくボランティア」は始まったばかりです。今後、さらに人数が増えていったときなど、様々な課題もありますが、海の博物館で行ったボランティア活動がそれぞれのボランティアさんにとって意義深いものとなるように、より一層の充実を図っていきたいと考えています。皆さんも「うみはくボランティア」になってみませんか。

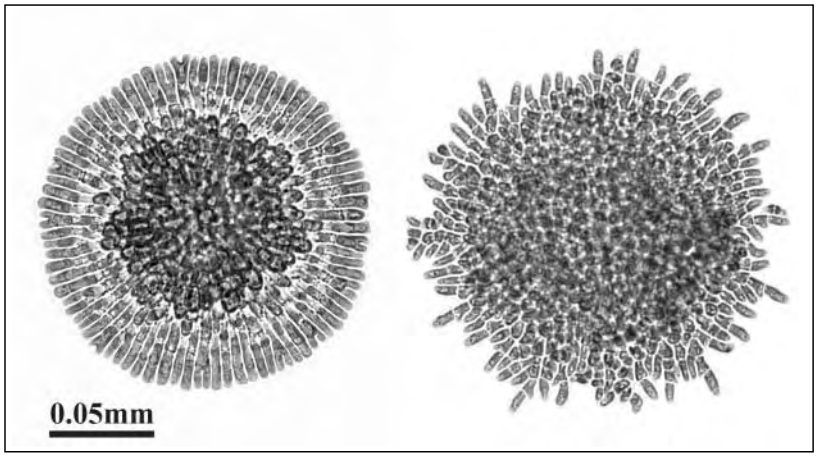
「うみはくボランティア」大集合！（鵜原理想郷にて）

「海の紳士録」千葉日報に連載開始!

平成20年6月2日から、千葉日報県南版のページに毎週月曜日に連載される「海の紳士録ー開館10周年勝浦“うみはく”発ー」がスタートしました。副題にあるとおり、当館開館以来10年間の活動の中で蓄積された千葉県の海の生きものについての話題を、当館研究員が各回1種類ずつ紹介しています。食卓などで馴染みの深い生きものの意外な一面から、超マニアックな珍しい生きものまで、様々な話題がてんこ盛りです。平成20年度は計38種を紹介し、21年度も連載が継続されています。過去の記事は当館展示室で閲覧できる他、17回目以降は千葉日報のウェブサイト「ちばとぴ」(http://www.chibanippo.co.jp/_feature/_umihaku/index.php)でもご覧いただけます。写真は紹介した生きものの一部です。



ヤドカリの一種マルミカイガラカツギ(上)
とせおっていた二枚貝の貝殻(下)



ピンク色をした小さな海藻イソハナビ(左)とトゲイソハナビ(右)

「みんなで工作　海の生きもの」開始!

平成20年度から、体験交流員が講師を務める「みんなで工作　海の生きもの」がスタートしました。月に2日展示室で行っている「海の体験コーナー」を、時間を1時間ほどに延長し、内容もボリュームたっぷりにさせた行事です。20年度は7月に2日4回、8月に4日8回実施しました。海の体験コーナーでは時間が短いために行っていないカモの模型の色塗り「エコデコイの色塗りをしよう」のメニューも加えました。どのメニューも参加者の皆様には大好評でした。

これからさらにパワーアップし、より楽しみながら学んでいただけるようにしたいと思います。皆様のご参加を、お待ちしています！！

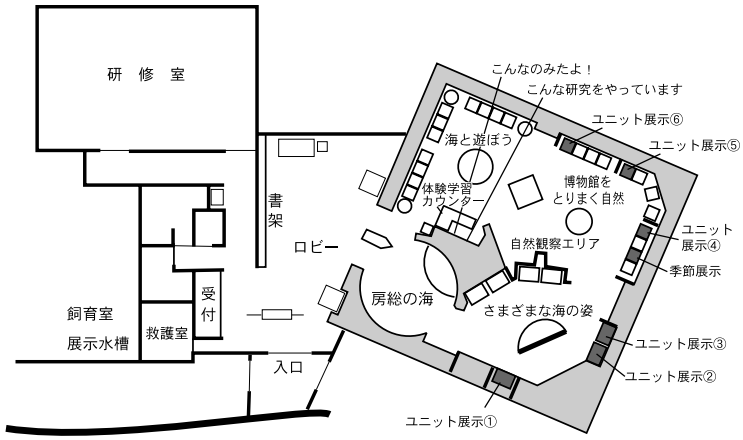
カモの模型の色塗り実施中！

こんなのができます(色がわからないのが残念！)

平成20年度の活動記録

1．展示活動

海の博物館では、常設展示のほかマリタイムシネマの上映やマリンサイエンスギャラリー・収蔵資料展の開催などを通して、房総半島をとりまく海の自然を紹介しています。



(1)ユニット展示、季節展示、自然観察エリアの展示交換

ユニット展示

場所	交換前のタイトル	交換後のタイトル	交換日
①	カジメの根元にすむ生きもの	カジメ海中林	平成20年 9月
①	カジメ海中林	カジメの根元にすむ生きもの	平成21年 1月
②	館山海底谷	サンゴと褐虫藻の共生	平成20年 5月
②	サンゴと褐虫藻の共生	種は旅する	平成20年11月
③	種は旅する	南の海からやってくる魚たち	平成20年 6月
③	南の海からやってくる魚たち	館山海底谷	平成21年 2月
④	北限の植物	海辺のアジサイ・山のアジサイ	平成20年 7月
⑥	貝の舌の秘密	エビ・カニ・ヤドカリは親戚	平成20年 4月

夏の展示で紹介したミンミンゼミの脱皮の写真

季節展示

「博物館をとりまく自然」のコーナーでは、植物の写真や昆虫の標本などを季節にあわせて交換し、それぞれの季節に実際にみられる生きものを紹介しています。また、それぞれの季節のトピックスも紹介しています。

自然観察エリア

海の博物館では、博物館前の磯と鵜原理想郷に自然観察エリアを設定しています。そこで見られる生きものを定期的に調査し、最新の情報を展示室のホワイトボードで紹介しています。

スイカズラ

ウラナミシジミ

ベンケイガニ